

令和3年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	佐野和彦 議員	1 / 2
発言項目		要 旨		答弁者
1	新型コロナウイルス感染症に関する事実認識と同調圧力と群集心理	<p>中国の武漢で新型コロナウイルス感染症からくる肺炎の発症が確認されて1年が経過したが、冬の到来とともに再び日本各地で感染が拡大している。我が富士宮市でも感染者数こそ少ないが、その例に漏れていない。一方で、ワクチン接種などの話題も出始めており、これからの市の対応が注目される。事実をしっかりと認識し正しい対処をすることは言うまでもないが、冷静な対応を心がけていかなければならないと思われるが、以下伺う。</p> <p>(1) 我が富士宮市でも、ワクチン接種のプロジェクトチームを組んでいるが、ワクチン接種をどのようにしていくのか伺う。</p> <p>(2) 感染者のうち、80%は無症状か軽症と言われている新型コロナウイルス感染症だが、ワクチンの役目は感染しても重症化しないことが大前提となる。副作用を怖がる若年層と、ワクチン接種をしない人を怖がる高齢者層とで考え方が違う中で、正常な判断を促す方法は考えられないか。</p> <p>(3) ワクチン接種までまだ時間があるが、自然免疫の重要性をこれまで以上に伝える必要を感じるが、どのように考えているか伺う。</p> <p>(4) シトラスリボン運動を推進すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(5) 飲食店を含め、新型コロナウイルス感染症で影響を受けている業種の支援をどのように考えているのか。</p> <p>(6) 新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年の夏休み以降登園、登校をしない園児や児童生徒が多いと聞くが、メディアが伝える過度な恐怖からくるストレスが原因とすれば、和らげる方法や登園、登校を促す抜本的な方策を検討できないか。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長
2	ゼロカーボンシティと自動車の今後	<p>環境省としては「2050年に温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素を実質ゼロにすることを旨とする首長自らが又は地方自治体として公表された地方自治体」をゼロカーボンシティとしている。これに伴って、富士宮市でも市長の令和3年1月13日定例記者会見でゼロカーボンシティを目指すとしているが、物理的なことも踏まえ、困難な対応となることが想定される。</p> <p>また、自動車を取り囲む環境も変化を求められている。国は「2050年カーボンニュートラル」に基づき、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を採択した。これにより、2035年までに純エンジン車新車販売禁止としているが、以下伺う。</p> <p>(1) ゼロカーボンシティを今後どのように目指していくのか伺う。</p> <p>(2) 現在の富士宮市内の企業に、どのような影響があるのか、また、どのような協力を求めていくのか伺う。</p> <p>(3) 国では、ガソリンエンジン等の自動車の販売を2035年までとしている。自動車人口が多い我が富士宮市では、少なからず影響が出てくると思うが、どのように考えているのか。</p> <p>(4) 従前から公共施設に充電スタンドの設置を提案してきたが、今後の検討課題とならないか。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長

発言 順序	1	議席 番号	14	氏名	佐野和彦 議員	2/2
発言項目		要 旨				答弁者
		<p>(5) 夢のエネルギーとして期待されていた水素だが、経済産業省が進める水素ステーションの普及は、2020年までに160か所を目指していたところ、現状は133か所となっている。世界遺産富士山を抱える富士宮市としても環境に配慮した取組として、富士市と協力し岳南地域で水素ステーションの誘致はできないか。また、今後、水素エネルギー導入計画等は検討できないか。</p>				